

若いなかま

発行 (公社)福岡県青少年育成県民会議

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号
吉塚合同庁舎6F

TEL(092)643-6001 FAX(092)643-6003

E-mail : net.y.d@isis.ocn.ne.jp

ホームページ : http://www.fayd.jp/



目 次

表紙	1
広報紙発行 200号によせて	2
広報紙発行 200号までの軌跡(概要)	3・4
第19回 福岡県青少年囲碁大会	5
異年齢交流で育て! 青少年(キャンプ)	6・7

第39回 少年の主張 福岡県大会	8・9
家庭の日・オアシス運動	10
地域の話(行橋市・直方市)	11
青少年育成“考”、その他	12

(公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。

(昭和45年 社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)

広報紙「若いなかま」発行200号によせて 青少年を取り巻く経済・ 社会の変化に適切な対応を

(公社)福岡県青少年育成県民会議会長 右田 喜章



青少年の健全育成事業は(1)出生数減による青少年人口の減少と(2)デジタル技術の急速な進展、さらには(3)経済のグローバル化等変化の中でますます重要になっています。しかし、青少年の健全育成に関わっている方々の懸命の努力にもかかわらず、時代の急速な変化のなかで次から次とあらたな問題・事件が起きています。まず子ども虐待。今、施設に収容されているかなりの子どもたちが親からの虐待によるものといわれています。また周囲に気付かれずに大事な命を落とす幼児のケースもあります。色々事情はあると思いますが悲しいことです。県民会議の標語である、「親が変わらねば」の為の施策を強化すべきです。また小、中、高校生のいじめの問題も自殺・不登校の原因となるなど痛ましい事件があつとを絶ちません。家庭・学校・地域・プラスチック行政・企業がそれぞれ責任を果たし、連携しながら本気で行動すべきです。学校の責任逃れの弁解・あやまりも聞き飽きました。再度、昔から言われている「子どもは何にもまさる宝」ということを思い起こしてほしい

ものです。出生数が年間百万人を切った(ピークは1949年の269万7千人)今、その宝の重みは増しています。

次にデジタル化の進展ですがIT技術が急激に発展し想定外の犯罪が起こっています。これらの犯罪から子ども達を守らなければなりません。簡

単にスマホを持たせて私は機械に弱いですが、ではだめです。子どもの(1)ネットの利用状況を保護者が把握し(2)フィルタリングの利用をし、同時にルールを決めて適切に管理をし、さらには(3)子どもと会話をし触れ合いを深めてください。また常にニュースに目配りし何かおかしいと思つたら学校と連携を取る事が大事だと思ひます。

次に福岡県が平成27年10月に発表した「ふくおか未来人材育成ビジョン」によりまずと、高校生の生活と意識に関する調査(国立青少年育成振興機構調べ)では、自分がダメな人間と思う事があるか?との問いに対し、「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合は72.5%と、残念ながら他国(アメリカ45.1%、中国56.4%、韓国36.2%)よりかなり高くなっている。また自分は人並みの能力があると自己評価している高校生の割合も日本は、55.7%で4か国中(アメリカ88.5%、中国90.6%、韓国67.8%)最も低い。これは福岡県も同じ傾向とこのことです。この原因のひとつに少子化の中で子どもを可愛がり過ぎ手伝いや仕事をさせないことがあるのではないかとこのことです。勉強プラス手伝いや仕事をさせ褒めてやる事が大事だと思います。そうすれば子どもにも自信がきます。子どもが望み、育つ3つの「…たい」は(1)ほめられたい、

特に家の人に(2)認められたい(3)役に立ちたい。との事です。「ありがとう」「よくがんばったね」「上手になったね」と声をかけする事が子どもにも自信をもたせます。また日本の若者には内向き志向が増え内閣府の調査によると、「自分の考えをはっきりと相手に伝える事ができる」と回答している日本の若者は48.0%で調査対象となった7か国(韓国74.9%、アメリカ82.7%、英国80.0%、ドイツ77.1%、フランス80.2%、スウェーデン61.7%)のなかでこれまた一番低い。この内向き志向の増加の結果、経済成長著しい中国やインドでは、海外留学生数が大きく増加しているのに、日本人の留学生数は減少している。(特に男性の、減少が顕著です。)なお、人口が日本の半分以下である韓国も、海外留学生数は日本を上回りその差は拡大傾向にある。今、日本は、人口減少社会に突入し国内消費が減少する中、グローバル化は避けられないしもうグローバル化は始まっています。そこでグローバル化に対応する国内人材の育成が急務です。先日、福岡経済同友会と九州大学をはじめとする福岡県内6大学とグローバル人材育成についての意見交換会がありました。そのなかで大学側から国際化には英語だけでなく国語の力も必要であり、小、中、高校生の時から意識して教育しないと大学だけの教育では間に合わないとの事でした。よく「日本人は信用はあるが存在感がない」と言われているが自分の考えを持ち、それを主張する。すなはち「教育IIティベート」の練習が必要です。それも今すぐ。資源の乏しい日本では人材こそが、資源です。福岡いや日本の将来のために青少年育成県民会議の仕事はますます大事になります。市町村民会議・青少年団体の皆様のご協力よろしくお願ひします。

広報紙「若いなかま」発行、200号までの軌跡(概要)

その1

広報紙「若いなかま」は平成29年11月15日付けの発行で第200号となる。記念号となる今号は、創刊号からの時代背景や広報部会の動きの軌跡を広報紙の記事を元に紹介する。なお、紙面の関係で今号は「その1」、次号で「その2」として掲載する。



和41年12月13日の「青少年育成福岡県民会議」の名称で誕生し、昭和44年5月19日に「社団法人福岡県青少年育成県民会議」と法人化しています。当時の記事を見ると会員数の倍増と財源確保を基本方針とし、重点として①広報宣伝活動②事業資金の確保③家庭の日の普及を総会で確認しています。発行は定期的に毎月1回、部数は1500部、ページ数は8頁でした。また、広報部会の編集方針としては「みんなで広報紙を作りましょう」をスローガンに会員を中心に誰でも自由に参加すること（意見、随筆、短歌等々）が出来ました。

◆天神の福岡県産業貿易会館内に事務局を置いていた県民会議の広報紙「若い仲間」創刊号（当時は「なかま」の字が漢字）は、昭和47年（1972年）8月1日付けで発行されました。最初の一面（表紙）には当時の専務理事（事務局長）が「青少年育成の苗床作り」の見出しで県民会議発足の目的や役割を明らかにした記事でした。なお、県民会議自体は昭

例示し、青少年の健全育成の重要性を家庭まで浸透させようとする取り組みと共に会員を拡大することを再三に亘って記事として取り上げていました。



▶家庭の日の目標を例示

特にこの時期に多く取り上げているのは「私の青少年育成活動」「私の提言」等会員からの記事が多くを占めています。この時の広報部会委員は権藤 猛部会長（元西日本新聞社論説委員長）、大谷秀水副会長（元西日本新聞社北九州支社長）、藤田裕満（福岡市青少年団体連絡協議会幹事）、竹上 勝（飯塚市立博物館嘱託）、林 敏弘（甘木市教育委員会指導主事）、田中重男（県民会議事務局長）の各氏でありました。

◆以降、県民会議や青少年育成の取り組みを末端まで浸透することを目的に「家庭の日の強調月間」の設定、「しつけと自制心」「親子心」等の随筆、「地域の活動たより」「食事は親子揃って」「家庭の歌」等の投書、「百字提言」等様々な工夫を凝らした広報紙面を発行しました。



▶家庭の日を楽しむ
オリエンティングコースの紹介

第21号では、寄稿原稿が支部長（市町村民会議会長）や推進指導員から会員全員を対象とするとし、「会員の広場」の記事枠を設けています。第23号では年間購読料として500円を徴収し、財源の確保を図る取り組みが行われています。また、「ひとりぼっちをなくす運動」の記事が掲載されていますが、これは、当時「カギっ子」の問題が大きくなっていったことが背景にあるようです。昭和50年の第31号には各市長より特別寄稿を頂き連載で掲載されています。官民一体となった取り組みが伺われます。

昭和50年8月1日付けの記事には「対外活動に重点をおく」「若い仲間」三周年を迎え、今後の編集方針を決定」として、掲載記事を市町村民会議の取り組み記事を重点に掲載することとしました。また、37号には「暴走族を締め出そう」の記事があり、県内で青少年による暴走行為が問題化していました。さらに、昭和51年43号前後の広報紙では「俗悪番組、出版の追放」「ポルノ追放大会開催」等の記事が掲載され、青少年の非行問題が次々と顕著に表れていた背景がありました。



▲俗悪番組、出版の追放

この様な状況に対して、「幸せなら席を譲ろう」や「人間の価値とは」等の公德心を掲げる記事と共に昭和51年6月1付けの広報紙第47号には総会で「オアシス運動の推進」を決議し、協賛団体を県市町村長会や社会福祉協議会等としてポスターやチラシも作成し具体的な取り組みが提起されています。

この時期の広報部会委員は大谷秀水部会長、日高貞雄副部会長、松田 節、小山達生、村上信子、伊藤 宏、草間昭久、大場正好、村田正子、山口逸郎の各氏でした。

◆昭和54年12月15日、第77号には「オアシス

音頭」を国際児童年記念事業として企画し、「第十五回明日をきざす青少年の集い全国大会」で歌と踊りが披露されたことを紹介しています。

なお、この「オアシス運動」の発祥は福岡県として「教育ジャーナル1月号」で全国に紹介されています。音頭の作詞・星野哲朗、作曲・市川昭介、編曲・小杉仁三でした。



▶オアシス運動推進

このころの広報部会委員は稲員大三郎部会長、安部 武副部会長、村上信子、山下真貴子、長田 博、平城三重子、池田 律の各氏でした。昭和58年6月からは稲員大三郎部会長、安部 武副部会長、長田 博、松井志満夫、池田 律、山下真貴子、平城三重子、田中俊幸、村上信子、森 博子の各氏が広報部会委員として活躍されました。

昭和60年1月10日付けの「若い仲間」で100号になりました。この100号記念では、「初心に返りよりよい広報紙を作っていくため、県民会議への意見を頂きたい」との趣旨で座談会を開催し

ています。参加者は杉村典子(瀬高町・県青年の舟班長)、井上健作(前原市・健全育成部会長)、高橋 強(福岡市・県青年の舟班長)、猪熊美千代(前原市・サマーキャンプ団員)、猪熊三枝子(前原市・母親)、中畑敏秀(志免町・県民マラソン大会4年連続1位)、中畑敏勝(志免町・父親)、津田 満(福岡市・県民会議副会長)、稲員大三郎(司会者・広報部会長)でした。

(次号続く)



▲創刊100号



▲広報部会座談会

FFG ふくおかフィナンシャルグループ

あなたのいちばんに。

福岡銀行



第19回福岡県青少年囲碁大会

日時：平成29年8月20日10時～ 場所：福岡県吉塚合同庁舎8階



「ルール説明」が行われ各会場に分かれて、終日熱戦が繰り広げられた。

開会に当たって、長井政典実行委員長の挨拶に続き、講師の安田九段の挨拶があった。安田九段が今、力を入れている「ふれあい囲碁教室」はミヤンマーでも開催しており、教育力や集中力の向上に大きな成果を挙げていると囲碁の力の素晴らしさを強調された。最後に吉田審査委員長による「ルール説明」が行われ各

◎開会式

今年の参加者は234名で、昨年に比べて増え、盛大に開会式が行われた。今回も安田泰敏九段を講師に迎え、プログラム（下段・図参照）のように3会場4種目の対局等と講演会が開催された。



野市生涯学習センターの囲碁教室を見つけた入会。そこで本日の囲碁大会を知り参加したという。お母さんのあゆみさんはその動機を「将棋の藤井聡太4段の影響もある」と。今年の参加が多かったのは将棋の影響もあるのかもしれない。動機は何であれ囲碁が身近にそして囲碁を通じて学習面の向上や交友関係が広がり、人生を豊かに出来れば幸いである。

は両親と筑紫野市から参加。今年の4月筑紫野市生涯学習センターの囲碁教室を見つけた入会。そこで本日の囲碁大会を知り参加したという。お母さんのあゆみさんはその動機を「将棋の藤井聡太4段の影響もある」と。今年の参加が多かったのは将棋の影響もあるのかもしれない。動機は何であれ囲碁が身近にそして囲碁を通じて学習面の向上や交友関係が広がり、人生を豊かに出来れば幸いである。



初心者対象のプログラムである。今年3歳から小学5年生迄幅広い年齢層20名が参加した。最年少3歳の神崎成幸君（写真上）は両親と筑紫野市から参加。今年の4月筑紫

ふれあい囲碁教室 19名参加

☆プログラム☆

- ★開会式
- ★県知事杯争奪戦 10時～
小学生・中学生・高校生
- ★異年齢交流対戦 10時～
- ★ふれあい囲碁教室 10時～12時
- ★講演会 13時～13時15分
- ★安田九段による多面打ち 13時40分～15時10分
- ★閉会式・表彰式
- ★お楽しみ抽選会



小学生16名・中学生13名・高校生6名の内、其々成績優秀者は来年中江蘇省で開催する「青少年囲碁交流大会」の選考対象とされる。（下表を参照）

最もレベルの高い戦いが展開されるのがこのプログラムである。今年是小・中・高校生部門で合計35人がエントリー。厳格なルールのもと対局が実施された。

県知事杯争奪戦 35名参加

も授与される。多面打ちの重複イベントも参加可能。また成績優秀者には知事奨励賞を授与される等、最も参加者の多い人気のプログラム。



年齢、棋力に係なく対戦できる。1局1時間以内で打つ。ハンディ戦の規則も有り、棋力の差があっても参加し易い。7割の勝率で1級昇級、8割の勝率で2級昇級の級位認定状

異年齢交流対戦 152名参加

第19回福岡県青少年囲碁大会 — 県知事杯争奪戦対戦結果 —					
◎小学生の部(16名参加)					
優勝	出口 稜真	豊津小学校6年	準優勝	徳永 純平	鳥飼小学校6年
三位	山下 稜太	三國小学校4年	三位	小寺 夏海	福大付属大濠中学校1年
◎中学生の部(13名参加)					
優勝	山崎 心鉄	長丘中学校3年	準優勝	三輪真之祐	津屋崎中学校3年
三位	橋本 翔	市立福岡高校3年	三位	若狭 光威	修猷館高校1年
準優勝	佐々木校真	東筑高校1年	三位	橋本 翔	市立福岡高校3年



「天才的な閃きがある」と褒められ嬉しそうだった。棋力に応じた多面打ちの指導はちびっ子棋士、棋士を目指す子どもたちにとって魅力的なイベントである。

今回の参加者は小学校1年生から高校生2年生（25級〜初段）15名が安田九段に挑戦した。今回は安田九段の要望もあり、5人ずつ3回行われ、個人指導を受けた。姉妹で参加した堀川芽衣さん（舞松原小5）と堀川萌さん（同小2）は今年で3回目の参加「自分が打つ場所と違う所に先生が打つので、それがとても勉強になる」と。また萌さんは安田九段から「天才的な閃きがある」と褒められ嬉しそうだった。棋力に応じた多面打ちの指導はちびっ子棋士、棋士を目指す子どもたちにとって魅力的なイベントである。

安田九段による多面打ち 15名参加



平成29年度

「異年齢交流で育て！青少年」

「自己学ぼう！育とう！」

青少年育成キャンプ

とき…平成29年8月2日(水)から6日(日)
ところ…熊本県立天草青年の家

本年度で35回目を迎える「異年齢交流で育て！青少年」(以降、育成キャンプ)は、熊本県立天草青年の家で実施しました。小学5年から大学生等まで91名が参加し、未知なる体験を求めて様々なプログラムにチャレンジしました。主な子ども達の活動を報告します。

●8月2日(水) 県庁前の東公園で出発式。高校生や大学生スタッフによる受付では、どの子ども達も少々不安な様子で名札と帽子を受け取っていました。出発式では、赤尾青少年育成課長や右田会長からの激励を受けました。いよいよ、バス2台に分乗し沢山の保護者等の方々に見送られて出発！



約3時間30分で天草青年の家に到着しました。周りの景色は福岡と違って八代海と有明海に浮かぶ島々が見えます。昨年度の山での「育成キャンプ」と違い、初めての



海での活動です。潮風のおいとも、これからチャレンジするプログラムにワクワクしました。早速、入所式と班長・副班長の任命式が行われました。どの班長・副班長さんも下茂野キャンプ長から任命書を授与される時は、目標に向かって班をまとめる重責に少々緊張気味でした。テントの設営では、初めて経験する子ども達の方が多い、大学生や高校生のスタッフの指導の下、5日間寝泊まりする「ホーム」を完成させました。子ども達は早速中に入って寝ころんだり、荷物の整理を行っていました。

班旗作成後、夕食のカレー作りに挑戦しました。ポイントは、下ごしらえと火起こしと会話です。初めて包丁を握る子ども達もいる中で、中学生の年長者が手を取って教えていました。また、薪割りには、細い木(焚きつけ)を作らなければなりません。ここでも高校生リーダーが丁寧に教えてい

ました。「やったー！できた！」と歓声の聲が聞こえました。そして、調理は、役割分担を超えての協力態勢が必要です。経験ある班リーダーや班長等の指導を受けて、どの班も上手に作っていました。子ども達は「苦労して作った夕食は、失敗した所もあるけど、おいしかった」「次は、もっとおいしく作りたい」等の感想を述べていました。野外炊飯活動は意外にも子ども達にとって人気のあるプログラムの一つです。



●8月3日(木) キャンプ第2日目

「育成キャンプ」の目玉プログラムの「ペーロン漕艇」体験が行われました。出港する港までバスで移動し、係の方から様々な注意を聞きました。救命胴衣を付けるのも初めてです。一つの船には16名が左右に分かれて乗船します。まず、船に乗る前に陸



上で櫂の動かし方を練習します。櫂を海に浸ける時と上げる時に注意しないと(跳ね上げると)後ろの人に当たってしまいます。櫂を上から押し下げるように海に浸け、真っ直ぐ上に抜くように上げなくてはなりません。子ども達は何回も練習していましたが、早速乗船です。棧橋から船に乗るときも揺れて重心を低くして乗りました。舵取りの合図で右側と左側が同時に漕ぎます。どちらかの力が弱いと真っ直ぐに進みません。また、広々とした海で小さな船を漕ぐのは、湖でボートを漕ぐのとは大違いで、怖さもありました。みんな「1・2・3、1・2・3」と声を合わせて漕ぎます。気持ちが合ったときは、スイスイと波の上を思った以上に進んでいきます。

皆で声を出し、気持ちの一つにして漕いで行く怖さも無くなり、さわやかな海風を受けて、爽快な気持ちになりました。終了後、手にまめが出来たけど、達成感でいっぱいになりました。

●8月4日(金)キャンプ3日目は、台風が近づいているので、4日目の「千元の森探検」を入れ替えて行いました。班別に千元岳を目指して登りました。はじめは元気が良かった子ども達もだんだんと声が出なくなり、ついにはいつもの「まだ着かんかなー」の連呼でした。しかし、千元岳に到着すると八代海や八代市が展望できてみんな「絶景だ!」「苦しかったけど、登って良かった」等々達成感や感嘆の声を上げていました。



●午後から、2つのグループに分かれてピザ作り体験を行いました。生地を作り、愛情を込めて「美味しくなれ!美味しくなれ!」とみんなが念じながら捏ねました。発酵でねかした

後にトッピングです。トマトソースを塗り広げた上に、ピーマンやベーコン等の具材をのせ、たつぷりとチーズをかけました。青年の家の職員さんがピザ釜で焼いてくれました。焼き上がったときは、どの班も大喜びでした。いつもとは違う、ピザ焼きを楽しみました。



●ピザ焼きと同時並行で記念品作成を行いました。4つのブースにそれぞれ指導するスタッフが配置され、子ども達は班毎にブースを回りながら記念品を作っていきます。記念品は、「ぶんぶんセミ」「芋虫クリップ」「非常食ストラップ」等の4種類です。「見てみて、かわいからう」「妹へのお土産」等々、子ども達は、世界に一つとない、自分だけの記念品を友達と見せ合いながら楽しんで作りしました。



●8月5日(土)キャンプ最終日前日です。午前中は、体育館でチャレンジゲームを行いました。風船を前の人と挟んで列を崩さずに進むゲームや三方所の空き缶を一番早く自分の所へ揃えるゲーム、竹とんぼを使つて的の穴に通すゲーム等をみんなで楽しく行いました。子ども達は、「経験した事ないゲームばかりで、とても楽し

しかった。」「年齢に関係なくゲームが出来て、絆が深くなりました。」「もつと、みんなとゲームをしたい」と学校や家庭では出来ないゲームを楽しみました。

また、午後からは、青年の家の職員さんの指導による「貝殻ストラップ作り」を行いました。自分で選んだ貝殻、絵柄、ヒモ等を使つて、世界に一つしかないストラップを作りました。

夕食後、お別れ集会を行いました。どの班も工夫を凝らした出し物で大変盛り上がりました。今年は特に中学3年生の参加が多く、班長達による「恋ダンス」も披露されました。一乗年は、高校生リーダーで参加したい」等の感想が聞かれました。

●参加した子ども達は、「育成キャンプ」では何時もと違うことを沢山考えて行動しなければなりません。段取りを考えて食事を作る、翌日のメニューを考えて片づける。次に行われる活動の為に必要な物を忘れないように準備する。協力をするための自分の行うべき行動を考え実行する。知らない人ともコミュニケーションをとらなければなりません。そして、体験する達成感や成成感、喜びや自信として蓄積し、次の行動へのエネルギーとなっていく。皆さん、この貴重な体験をこれからの生活に活かしてほしいと思います。お疲れ様でした。



ココロがある。コタエがある。

誠実なココロで人と向き合い、ベストなコタエをご提案する。

それが、創立以来ずっと変わらない西日本シティ銀行の仕事です。

お客さまの人生のパートナーとして、企業の皆さまの事業のサポーターとして。

「九州でいちばん頼れる銀行」を目指し、西日本シティ銀行は挑戦し続けます。



ココロがある。コタエがある。
西日本シティ銀行



**わたしの主張
2017**
第39回

少年の主張福岡県大会

～いま、中学生が訴えたいこと～

■と き:平成29年9月2日(土) ■ところ:ウェルとばた大ホール(北九州市)



審査委員長を
ち、長井政典
した16名のう
本大会で発表
次審査を経て
から1次、2
える応募の中
1万点を超
められた。
協力により進
る手話通訳の
の皆さんによ
害者福祉協会
九州市身体障
た。また、北
生徒が行っ
平沢里帆)の
子、箱崎天音
斗真、古江雛

第39回少年の主張大会は、新学期が始まり、初秋を感じさせるような高い青空が広がる爽やかな午後、北九州市、JR戸畑駅に隣接する「ウェルとばた」で開催された。

開会にあたり、開催地を代表して、北九州市青少年育成市民会議会長の伊藤一義氏の挨拶に続き、来賓の小川洋福岡県知事(代読)、北九州市教育委員会教育次長古賀厚志氏の祝辞を戴いた。

主催者の(公社)福岡県青少年育成県民会議の右田喜章会長は、「人格を形成するうえで大事な時期の出会い、考えていること、感銘を受けたこと、家族の絆などについて、自分の言葉でまとめ発表するこの機会に、中学生の考えを聞き、理解を深めていただきたい。」と挨拶した。

司会は北九州市立若松中学校放送部4名(別府

早鞆中学校 ダンス部



はじめとする10名の審査委員による審査の結果、県知事賞、教育委員会賞、北九州市長賞、優秀賞第一席、審査委員会特別賞の5名、優秀賞11名が選ばれた。

また、審査の間のアトラクションでは、北九州市立二島中学校の「合唱」、若松中学校の「吹奏楽」の演奏、早鞆中学校のリズミカルな「ダンス」が、どれも素晴らしく、多くの聴衆と発表者の緊張を解きほぐし和ませてくれた。

「いかせ命」と題して福岡県知事賞を受賞した久留米市立田主丸中学校3年の和仁あやねさんは「少年の主張全国大会」に福岡県代表として発表しました。

なお、次年度は、筑紫郡那珂川町で開催予定。

講評

審査委員長
長井 政典氏



発表された16人の皆さんの主張は、差別、人権、命の尊さ、家族の問題、将来の夢など様々で、自分の身近な体験をもとに自分の思いや悩み、苦しみ、喜びをわかりやすく訴えたものでした。人生の貴重な宝物に溢れ、一人ひとりの思いが会場の皆さんや審査委員の心に響く、素晴らしい出来栄でした。

福岡県知事賞に選ばれました和仁あやねさんの主張は、猪の命に触れて命の尊さを気付かせてくれたという内容で、審査委員の幅広い共感を得ました。

どう評価されるかではなく、全力を尽くしたかどうか大切なことだと、私は思っています。

今日の発表が、今後の皆さんの人生にとって大きな財産になることを信じています。これからの新たな人生の一步にしてください。

優秀賞受賞者

(発表順)

氏名	題名	市町村名	学校名	学年
竹前 更紗	弟が教えてくれた事	飯塚市	飯塚日新館中学校	3年
小野 愛莉	自分らしく生きる権利	久留米市	久留米市高牟礼中学校	3年
成重 楓真	心のメーター	飯塚市	飯塚市立穂波東中学校	3年
廣渡 遥	世界で困っている人のために	北九州市	北九州市立守恒中学校	3年
大塚 雄兵	あたりまえの毎日のために	大野城市	大野城市立大野中学校	2年
原 隼介	祇園の祭りを通して	糸田町	糸田町立糸田中学校	2年
中園 晴香	あたり前の間から	飯塚市	飯塚市立飯塚第一中学校	3年
大向久里史	親子問題をみつめ直して	田川市	田川市立中央中学校	3年
現王園 京	震災後に思うこと	行橋市	行橋市立仲津中学校	2年
佐藤 愛結	「見えない壁」の向こうへ	飯塚市	飯塚日新館中学校	2年
大場 仁史	大切な個性	飯塚市	嘉穂高等学校附属中学校	2年

県知事賞



久留米市立
田主丸中学校3年

和仁 あやねさん

いかせ命

ガン・ガン・ガン!

硬い物と硬い物がぶつかり合うような激しく鈍い音が山中に...

私が小学三年生のころ近所のおじさんにさそわれて裏山に入っていました。耳をつんざく音の正体とはおりに突進する大きな猪でした。その猪は額から血を流してまでおりから出ようと必死でした。幼かった私は、猪がぶつかる激しい音とその姿に怯えていました。おりの中をよく見るともう一匹猪がいます。その猪はまだ小さい瓜坊です。瓜坊も私と同じように怯えているのです。あの大きな猪は身の危険を感じ逃げようとしているだけでなく、大切な子である瓜坊を守ろうとしているようにも見えました。額から流れている血が猪の頬をつたっていくのを見て、私は猪が泣いているように見えました。

おじさんは、槍を猪に狙いを定め、一直線に突きました。次の瞬間槍は直撃し、ぱたりと倒れ痙攣していました。まだ小さかった瓜坊は放してあげることにしました。猪を運ぶおじさんの背中が少し悲しげだったのを覚えています。

広い場所へ移りおじさんは手に持った鋭いナイフで猪を解体していきます。血抜きをし、皮をはぎとり、内臓を取り出し、慣れた手つきで手際よく作業を進めていきます。すると、「こっちに来て手出してんね。」

言われるがままに両手を差し出すと、私のまだ小さい手のひらに猪の大きな心臓がのりまわりました。まだかすかにトクントクンと動いています。「その温もり、重み、そして命の大切さは絶対に忘れたらいかんよ。」

おじさんの言葉をしっかりと受け止め、私はもう一度手の上のモノに目をやりました。真っ赤で温かいこの心臓があつた猪のものだといふことがとても信じられませんでした。

しばらくすると解体が終わわり、猪は皮と肉と骨と血と内臓に分けられていました。そうして肉となった猪をみんなでいただくことになりました。猪から肉へと変わっていくのを一部始終見ていただけに「食べる」という行為がとてもつらく重く感じました。「いただきます。」自分の口から出たその言葉は純粋に感謝の心がぎゅつと詰まっているように感じました。

なぜおじさんは猪を狩るのでしょうか。母は私に、「猪は普段山の中のタケノコや木の実を食べて生きているのよ。でも、猪が増えすぎると山の中の食べ物が不足し、人の住む地まで下りてきて畑や果樹園を荒らしてしまうの。そうならないためにおじさんは

猪の頭数をおさえることで私たちの地域を守ってくれているのよ。」と話してくれました。

あの猪の一つの命は私に大切なことを気付かせてくれました。それは私たちはたくさん命によつて生かされているということ。あつた猪も私の血となり肉となり私の中で生きています。子を守ろうと血を流す猪。怯える瓜坊。おじさんの悲し気な背中。真っ赤で温かい心臓。「いただきます。」の一言の尊さ。どれも幼かった私の心を大きく変えてくれました。

今、私たちはたくさん命をいただいで生きています。しかし、現在日本では自ら命を絶つ人が年間約三万人いると聞いています。その中には、とてもつらいこと、苦しいことなどに耐えきれず命を絶つた人もいます。自分の命を絶つということとは私たちが生かしてくれているものたちの命を粗末にあつかうということ

です。私はこれから、たくさんのおかいらいだいたこの命を、色々なことや、たくさんの人たちのために生かし、生きていきたいです。いかせ命



入選おめでとうございます!各賞を受賞した皆さんを紹介します。



審査委員会特別賞

「夢~絶望からつかんだ希望」
飯塚市立鎮西中学校
3年 岩井愛璃さん



北九州市長賞

「優しさの原点」
北九州市立守恒中学校
3年 足立琴音さん



優秀賞第一席

「弟がいたからこそ」
行橋市立中京中学校
1年 小野優衣さん



福岡県教育委員会賞

「架け橋になる」
福岡県立久留米
聴覚特別支援学校中学部
2年 宮川紗良さん

「家庭の日」「オアシス運動」入賞作品の紹介

県民会議が普及を進める「家庭の日」「オアシス運動」をテーマにした作文とポスターを募集したところ、670点の作文と300点のポスターの応募がありました。どの作品も家庭の温もりや挨拶の大切さが伝わる優れたものばかりでしたが、第一次審査、第二次審査を経て、それぞれ最優秀賞1点、優秀賞5点、奨励賞20点が選ばれました。ここに最優秀賞作品を紹介します。

作文の部 最優秀賞

「ありがとう」思いをのせて
 中間市立中間中学校 1年生
 瀨崎 和凜

私の母は高校時代の友人と文通をしています。スマートフォンでメールのやり取りが普通の時代に今どき手書きの手紙なのかと不思議に思うのですが、メールでは伝わらない気持ちがお互いに伝えられて良いのだと母は笑います。先日、その友人から何ヶ月も手紙が来ないことがあり、何か大変なことが起きたのではないかと、病気で入院でもしてしまったのではないかと心配した母が電話をかけたところ、仕事が忙しすぎて返事を書くことができなかっただけで、病気などではなかったとわかり、母はほっと胸をなでおろしていました。その時、母の友人は「心配してくれてありがとう」と言っていたそうです。心配かけてごめんね、ではなく、心配してくれてありがとう。このや

ポスターの部 最優秀賞

遠賀町立島門小学校 6年生
 藤井 伽野



り取りを聞いて、私は母とその友人がとも互いを思いやっていることがわかり、心が温かくなりました。

また、別の日のことですが、私の祖母は雨の降る日に自宅の前で見知らぬ高校生のお姉さんが自転車が壊れて困っていた時に、自転車を家の車庫で修理して、車で高校まで送って行ってあげたことがあります。後日、そのお姉さんに何度も「助けていただいていたありがとうございました」と言われている祖母を見て、私はとても誇らしく思いました。祖母は困っている高校生を見て、もしも孫である私がいつかどこかで同じように困っていたら、誰かが助けてくれますように、と思って助けたのだと言っていました。祖母は感謝されたから助けたのではなく、感謝する気持ちをその人がまた他の誰かに伝えて、みんながみんなを助け、「ありがとう」と感謝し合う、そんな世の中になつてほしいという気持ちが心にあつたのだと思います。

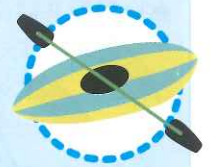
子どもの頃につかっていた「ありがとう」という言葉は、何か物をもらったり、何かをしてもらったりの時のとっさのお礼としての「ありがとう」でした。大きくなるにつれ、この言葉にはもっと深く大きな意味があることに気づきました。相手への感謝だけでなく、自分の相手への気持ち、あなたがいてくれてうれしいという思いまでも時にはのせて発することがあるのだな、と感じました。

今の時代は感謝の気持ちもメールで簡単に済ませてしまう人が多いです。人に直接「ありがとう」と伝えるのは照れくさく、時には面倒だと思ってしまうのですが、直接声に出して言う「ありがとう」

は、メールの文字で書く「ありがとう」の何倍も色々な思いをのせて相手の心に響かせることができる美しい言葉であり、音楽だと思えます。人に何かをしてもらったなら、「ごめんなさい」ではなく「ありがとう」と言いたい。そして人からももらった「ありがとう」の気持ちをもちと大きくして誰かに伝えていきたいと思っています。

優秀賞

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 作文の部 | 福岡市立塩原小学校2年生 亀井 理央 |
| | 柳川市立昭代第二小学校5年生 大坪 陽奈 |
| ポスターの部 | 国立福岡教育大学付属久留米小学校6年生 森田 俊輔 |
| | 中間市立中間北中学校1年生 田嶋 佳奈 |
| | 福岡市立香椎第三中学校2年生 帖佐 梨加 |
| | 柳川市立垂見小学校1年生 古藤 梨々華 |
| | 遠賀町立浅木小学校2年生 足立 龍哉 |
| | 遠賀町立浅木小学校5年生 足立 美月 |
| | 遠賀町立遠賀中学校2年生 江口 柚花 |
| 築上町立椎田中学校3年生 齋 藤 杏 | |



子どもも大人も カヌーで川下り

直方市青少年育成市民会議

直方市青少年育成市民会議では、異年齢・異世代間の交流や体力の向上のため、直方市スポーツ推進委員協議会との共催で、去る8月20日（日）にカヌーでの川下りを開催しました。

晴れ渡る青空の下、直方市の中央を流れる遠賀川で、子ども22人・大人11人の合計33人が笑顔で水とふれあいながら自然を体感し、大人も子どもも貴重な経験になったと思います。

11月には、様々なニュースポーツでの交流事業を開催する予定です。

今後、直方市青少年育成市民会議では異なる世代との交流や自然などと直接ふれあう体験の機会の提供に努めていきたいと思っています。



★ ★ ★ ★ ★ 地域の話題 ★ ★ ★ ★ ★

今回は2つの地域の話題をお知らせします。地域の特徴を生かした直方市のカヌーの川下りと行橋市の先進的な取り組み「適応指導教室の交流会」を取り上げました。



適応指導教室との交流会

行橋市青少年育成市民会議

当会議では今年度から年間2回、様々な理由で不登校になっている児童・生徒が早く学校に復帰できるようにと支援・指導をしている適応指導教室としての交流会を実施することになった。その1回目として「バーベキュー・ソーメン流し大会」を7月13日（木）に同教室の駐車場で行った。

参加者は総勢15名うち育成市民会議からは理事や幹事5名が参加、中学生4名（男3・女1）と保護者2名、そして職員3名で準備、買い出し調理を分担。最初はぎこちなさもあつたが肉や野菜が焼けるころには会話や笑顔が多くなり、和やかな雰囲気になった。また、サプライズで流しソーメンを実施したところ大好評。途中、教育長（当会議副議長）も参加し、中学生や保護者と会話を交わしながらソーメンを美味しく口にしていた。



後片付けは全員で行い、好評のうちに交流会を終えた。中学生からは、次回1月に実施する餅つき大会を楽しみにしているとの声が聞かれた。

TENJIN 16 SKYHALL

天神スカイホール

福岡・天神の多目的ホールとして「心からのおもてなし」を提供いたします。
講演会、シンポジウム、研修会、各種パーティー、同窓会、記念行事など
幅広くご利用いただけます。お気軽にご相談下さい。



事務局だより

主な行事(H29年7月9日～11月26日)

7月 9日(日) 「育成キャンプ」 スタッフ研修会、事前説明会
11日(火) マラソン大会事務局会議
第4回広報部会
少年の主張第1回審査
少年の主張第2回審査
第5回広報部会
27日(木) 第5回広報部会
2日(日) 異年齢交流で育てよう!青少年
8月 2日(日) 異年齢交流で育てよう!青少年
27日(木) 第5回広報部会
12日(火) 少年の主張第1回審査
26日(火) 少年の主張第2回審査
27日(木) 第5回広報部会
9月 4日(金) 囲碁大会実行委員会
10日(日) 総務部会
22日(火) 第19回福岡県青少年囲碁大会
26日(土) 青連協常任委員会
2日(土) 青連協記念事業第2回実行委員会
5日(火) 第6回広報部会
10日(日) 青連協記念事業
10日(日) 「ウオークラリー大会」部会
12日(火) 青連協常任委員会
20日(水) 青連協記念事業「記念式典」部会
28日(水) 家庭部会
1日(水) 「家庭の日」オアシス運動
4日(水) 作文作品最終審査
6日(金) 「家庭の日」オアシス運動
14日(土) ポスター作品最終審査
14日(土) 青連協第27回青年リーダー養成事業
20日(金) マラソン大会事務局会議
25日(水) 青連協常任委員会
15日(日) マラソン大会事務局会議
23日(木) マラソン大会事務局会議
26日(日) マラソン大会事務局会議
福岡県民さわやかマラソン大会

新賛助会員(H29年11月現在)

特別賛助会員
日本食品株式会社(古賀市)

赤い羽根共同募金



高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

この広報紙は、共同募金の配分を受けて発行しています。

青少年育成考

「共に歩もう」

子育てを通して親になる」

公益社団法人福岡県青少年育成県民会議 理事
福岡県PTA連合会会長 永原 謙 太郎



私たち親が子どもであった頃と比べ、インターネットをはじめ、生活環境は随分変化してきました。今の子どもたちはその環境の中でたくましく育っています。私たちもその環境に順応しながら子育てに向き合っています。昨今問題になってきている携帯スマホ、SNS等がそのよい例だと感じています。私たち親世代とは違い今の子どもたちは生まれたときから携帯スマホ、SNS等が普及した環境で育っています。危険な面もあるからと言って「持たせない」という考え方もあります。しかし「正しい使い方を身に着けさせる」として、親の責任を再認識しよう、親のためのスマートフォン宣言

を総会に於いて提案しご承認いただきました。また、家庭教育の重要性を鑑み福岡県PTA連合会を代表する事業として今年度で14年目となる「新・家庭教育宣言」を実施しています。結びに、PTAという組織は社会教育関係団体です。PTAと耳にする子どもたちのためだけに教育団体だと考えられがちですが社会教育とは私たち親が学び成長するということも含まれています。様々なPTA活動の中で私たち親もその活動を通して学び、成長していかなければならないと考えています。私たちは子育てをしながら少しずつ親となっていくのだと思っています。今後も県内すべての会員と県内すべての子どもたちのために共に歩んでまいりたいと考えています。

編集後記

二〇〇号の記念号です▼青少年育成県民会議は昨年で五〇周年を迎えました▼この間広報委員会もいろいろな変遷を経て今に至っています▼五〇年間の「若いなかまを週(さかのぼ)ると発行部数・ページ数・白黒からカラー印刷へと内容も人も大きく変わってきました▼現在の様式を取るようになったのは先代部の部長からと聞いています▼青少年育成県民会議の定期的な行事や特集記事など部員自ら取材、原稿を書くことを原則とし、年間3回(7月・11月・3月)四五〇〇部を発行しています▼ボランティア活動としては重責ではあります。白紙から文章を起すのは「モノづくり」と同じような感覚です▼出来上がった原稿は時には我が分身のような気もしますが「生みの苦しみはありますが」が広報の醍醐味でもあります▼二〇〇号を機に「若いなかま」の新たな出発と飛躍につながれば幸いです。

青少年育成県民会議広報部会長 馬場 京子

青少年の健全育成のために

賛助会員入会のお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議は、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動を行っています。

県民会議では、賛助会員の募集を行っています。会費は左下のとおりです。電話(092-643-6001)をいただければ、資料をお送りいたします。

賛助会員の年会費

- 個人 1口 1,000円
- 法人又は団体 1口 15,000円
- 特別賛助会員 1口 50,000円

納入いただく方法

会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。

- 西日本シティ銀行千代町支店(普通預金) 3053033
- 福岡銀行県庁内支店(普通預金) 526475
- 筑邦銀行福岡支店(普通預金) 1597091
- 福岡中央銀行本店(普通預金) 1030569
- ゆうちょ銀行振替 01700-5-4057

